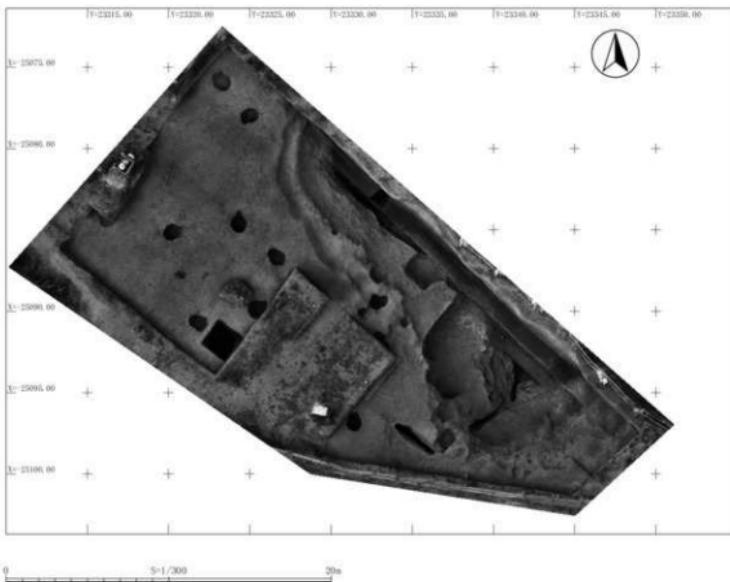


千葉県八千代市
神久保寺台遺跡 C 地点

—店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



平成30年度

万仁土地株式会社
八千代市教育委員会

例 言

1. 本書は、八千代市教育委員会が平成29～30年度民間開発等埋蔵文化財調査事業として実施した発掘調査の報告書である。この調査は店舗建設に伴うもので、事業者である万仁土地株式会社の委託を受けて実施した。
2. 調査を行なった遺跡は神久保寺台遺跡 c 地点（遺跡No.7）で、所在地は八千代市神久保字北ノ谷津53番4, 7, 8, 9, 字寺ノ台75番29である。
3. 調査及び整理は以下のとおり実施した。

確認調査 平成29年度市内遺跡調査事業として、国庫及び県費の補助を受けて実施した。
期間 平成29年7月31日～8月9日 面積273／2900.76m² (担当: 藤 直行)
本調査 期間 平成30年2月1日～4月26日 面積296.5m² (担当: 藤 直行)
本整理 期間 平成30年5月8日～10月31日 (担当: 藤 直行)
4. 写真・図面等の調査資料は八千代市教育委員会が保管している。
5. 調査参加者は以下のとおりである。

本調査 板橋三郎, 海保庸子, 桐原 誠, 窪坂雄志, 小弓場直子, 柴田清加, 鈴木一代,
多田宏太, 田中直子, 鳥塚秀平, 萩原雄一, 橋本喜正, 長谷川恵理子, 林和也,
藤田千博, 松本康太郎, 室中勝典, 山本みつ江
本整理 多田宏太
6. 本書の図版作成および編集、執筆は藤、多田が行なった。
7. 報告書の作成にあたっては野口 淳氏からご支援を賜った。厚く御礼申し上げる。

凡 例

本書における遺構実測図の用例

- (1) 図中における方位は世界測地系による公共座標に基づく。
- (2) 縮尺率は以下のとおりである。

堀跡：平面図1/200・セクション図1/150・エレベーション図1/80, ピット・陥し穴：
1/40
- (3) 堀跡で検出された焼土と硬化面をセクション図で示しているが、これらの範囲はあくまで検出されたおおよその層位を示したものであり、緻密なものではない。

本文目次

例　　言

凡　　例

本文目次

第1章　調査経過および神久保寺台遺跡の概要

第1節　調査に至る経緯と調査の概要	1
第2節　神久保寺台遺跡の概要	4

第2章　検出された遺構

第1節　縄文時代	6
第2節　中　世	8

第3章　まとめ

第1節　縄文時代	17
第2節　中　世	17

報告書抄録

挿図目次

第1図　遺構検出状況写真	第2図　神久保寺台遺跡の位置と周辺の遺跡
第3図　神久保寺台遺跡の各調査地点	第4図　調査区全体図
第5図　基本層序	第6図　1P
第7図　第1号堀跡（1）	第8図　第1号堀跡（2）
第9図　第1号堀跡（3）	第10図　第1号堀跡（4）
第11図　第1号堀跡（5）	第12図　第1号堀跡（6）
第13図　2P・3P（1）	第14図　2P・3P（2）
第15図　まとめの関連資料	

表目次

第1表　神久保寺台遺跡と周辺の遺跡（1）　　第2表　神久保寺台遺跡と周辺の遺跡（2）

第3表　神久保寺台遺跡における過去の調査概要

第1章 調査経過および神久保寺台遺跡の概要

第1節 調査に至る経緯と調査の概要

確認調査までの経緯 平成29年6月23日付で万仁土地株式会社 代表取締役 関根誠之氏（以下「事業者」）から、神久保寺台遺跡（遺跡No.7）の包蔵地内にあたる八千代市神久保字北ノ谷津53番4, 7, 8, 9, 字寺ノ台75番29を対象とする文化財保護法第93条第1項の規定による土木工事の発掘届が八千代市教育委員会（以下「市教委」）に提出された。事業者と市教委で取り扱いの協議を行なった結果、確認調査を行なうこととし、準備が整った平成29年7月31日に確認調査を開始した。

確認調査 確認調査は、平成29年度市内遺跡調査事業として国庫及び県費の補助を受けて実施し、対象面積2900.76m²のうち273m²を調査した。その結果、縄文時代陥穴1基、中世堀跡1条が検出された。

保存協議 確認調査の結果をもとに協議範囲を296.5m²として市教委と事業者間で検討した結果、協議範囲全域に対して記録保存の措置をとることになった。市教委は事業者に対して平成29年11月2日付で調査にかかる費用の見積もりを提示し、事業者は同年29年12月14日付で調査依頼書を提出し、同年12月21日付で八千代市（以下「市」）はこれを受託した。そして、同年12月28日付で市・市教委・事業者の三者間で保存措置に関する協定を締結し、平成30年1月15日付で八千代市と事業者間で本調査の委託契約を締結した。市教委は準備が整った平成30年2月1日に本調査を開始した。

本調査の方法 市教委は測量会社に委託し、世界測地系の座標を調査区内とその周辺に取り付け、この座標を基準に光波測量機を使用して調査に関わる測量を行なった。また、画像作成のための写真撮影を行なった。表土の掘削作業は重機で行なった。

本調査の経過 平成30年2月1日に調査区設定を行ない、2月5～7日に表土の掘削を行なった。2月8～9日にかけて遺構検出および遺構検出状況の写真撮影を行なった。2月12日以降は遺構の掘削作業に入り、4月26日に全ての作業を終了した。

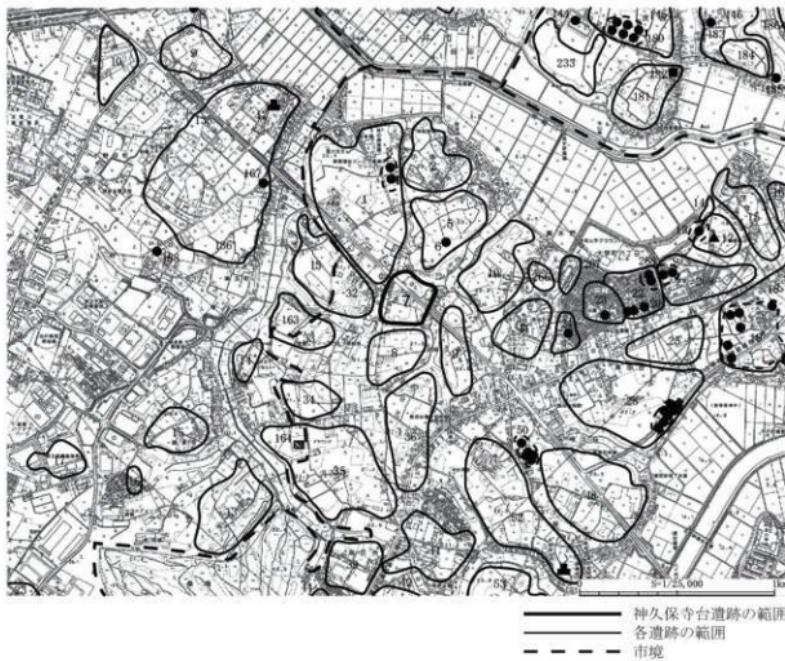


南東から



西から

第1図 遺構検出状況写真



第2図 神久保寺台遺跡の位置と周辺の遺跡

第1表 神久保寺台遺跡と周辺の遺跡（1）

遺跡No.	遺跡名	水系	種別	時代	遺跡No.	遺跡名	水系	種別	時代
船橋市					17 横作道路 神崎川 包蔵地 繩文				
8 向塚	神崎川 墓		中近世		135 木駄橋遺跡 神崎川 包蔵地 繩文				
9 小野田遺跡	神崎川 包蔵地		繩文, 古墳		136 戸田遺跡 神崎川 包蔵地 繩文				
10 諸野遺跡	神崎川 包蔵地		繩文		163 烏田台向原遺跡 神崎川 集落跡 古墳				
12 台遺跡	神崎川 包蔵地		繩文, 古墳		164 四街道遺跡 神崎川 包蔵地 繩文, 古代				
13 向野遺跡	神崎川 包蔵地		繩文, 古墳, 古代		167 小野田町所在塚 神崎川 墓 中近世				
14 御竹遺跡	神崎川 包蔵地		不明		168 車方町所在塚 神崎川 墓 中近世				
15 内堀込遺跡	神崎川 包蔵地		繩文		白井市				
16 鈴身丸山遺跡	神崎川 包蔵地		繩文		7 谷田木曾地遺跡 神崎川 包蔵地 集落跡 旧石器, 繩文, 先史, 古墳, 古代, 中近世				

第2表 神久保寺台遺跡と周辺の遺跡（2）

遺跡No.	遺跡名	水系	種別	時代	遺跡No.	遺跡名	水系	種別	時代
印西市					16	子の神台遺跡	神崎川	包蔵地、集落跡	旧石器、縄文、弥生、古墳、古代
144	千駄荔塚群	龜成川	塚	中近世	18	道地遺跡	新川	集落跡	縄文、弥生、古墳
145	北の台遺跡	龜成川	包蔵地	縄文	19	平戸台古墳群	新川	古墳、塚	古墳、中近世
146	向新田遺跡	神崎川	集落跡、牧跡	縄文、弥生、古墳、古代、近世	20	真木野古墳	神崎川	古墳	古墳
180	北台塚	神崎川	塚	中近世	22	佐山台遺跡	神崎川	集落跡	縄文、弥生、古墳、古代
181	南台遺跡	神崎川	包蔵地	縄文、古墳	23	真木野向山遺跡	神崎川	集落跡、塚	縄文、古墳、古代、中近世
182	南台塚	神崎川	塚	中近世	24	東山久保遺跡	神崎川	集落跡、塚	縄文、弥生、古墳、古代、中近世
183	上谷津塚	神崎川	塚	中近世	25	平戸台遺跡	新川	包蔵地	縄文
184	安養寺遺跡	神崎川	包蔵地	縄文、弥生	28	間見穴遺跡	新川	包蔵地、集落跡	旧石器、縄文、弥生、古墳、古代、中世
185	安養寺塚	神崎川	塚	中近世	32	原内遺跡	神崎川	集落跡	縄文、弥生、古墳、古代
186	宗像神社遺跡	神崎川	包蔵地	縄文	33	島田台向原遺跡	神崎川	集落跡	古墳、古代
233	武西千駄荔遺跡	神崎川	包蔵地	不明	34	行ヶ林遺跡	神崎川	包蔵地	縄文
八千代市					35	四ヶ街道遺跡	神崎川	包蔵地	縄文、古代
1	作山遺跡	神崎川	包蔵地	縄文、古墳、古代	36	神明前遺跡	神崎川	包蔵地	縄文、古代
2	中ノ台遺跡	神崎川	包蔵地	縄文、古墳、古代	39	福久保遺跡	神崎川	包蔵地	縄文、古代
3	作山塚群	神崎川	塚	中近世	41	東郷久保遺跡	新川	包蔵地	縄文、古代
5	妙正神遺跡	神崎川	包蔵地	旧石器、縄文、弥生、古墳、古代	42	東郷久保南遺跡	新川	包蔵地	縄文、古代
6	神久保塚	神崎川	塚	中近世	48	島田込の内遺跡	新川	集落跡	旧石器、縄文、古墳、古代
7	神久保寺台遺跡	神崎川	包蔵地、城館跡	縄文、古代、中世	50	島田塚群	新川	塚	近世
8	夏刈山遺跡	神崎川	包蔵地	縄文、弥生	51	島田城跡	新川	城館跡	中近世
9	椿山遺跡	神崎川	包蔵地	縄文、古代	52	島田遺跡	新川	包蔵地	古代
10	真木野遺跡	神崎川	包蔵地	縄文、古墳	53	桑納前畠遺跡	新川	集落跡	縄文、古代
11	松原遺跡	神崎川	包蔵地、集落跡	旧石器、縄文、弥生、古墳、古代	266	真木野前遺跡	神崎川	包蔵地	古墳、古代
12	佐山貝塚	神崎川	貝塚、集落跡	縄文、弥生、古墳	267	瓜ヶ作遺跡	神崎川	包蔵地	縄文、弥生、古代
13	佐山塚群	神崎川	塚	中近世	268	田原塚古墳群	神崎川	古墳、塚	古墳、近世
14	西の下遺跡	神崎川	包蔵地	縄文、古代	269	田原塚遺跡	神崎川	集落跡	弥生、古墳
15	新久遺跡	神崎川	包蔵地	旧石器、縄文、弥生、古代					



第3図 神久保寺台遺跡の各調査地点

第3表 神久保寺台遺跡における過去の調査概要

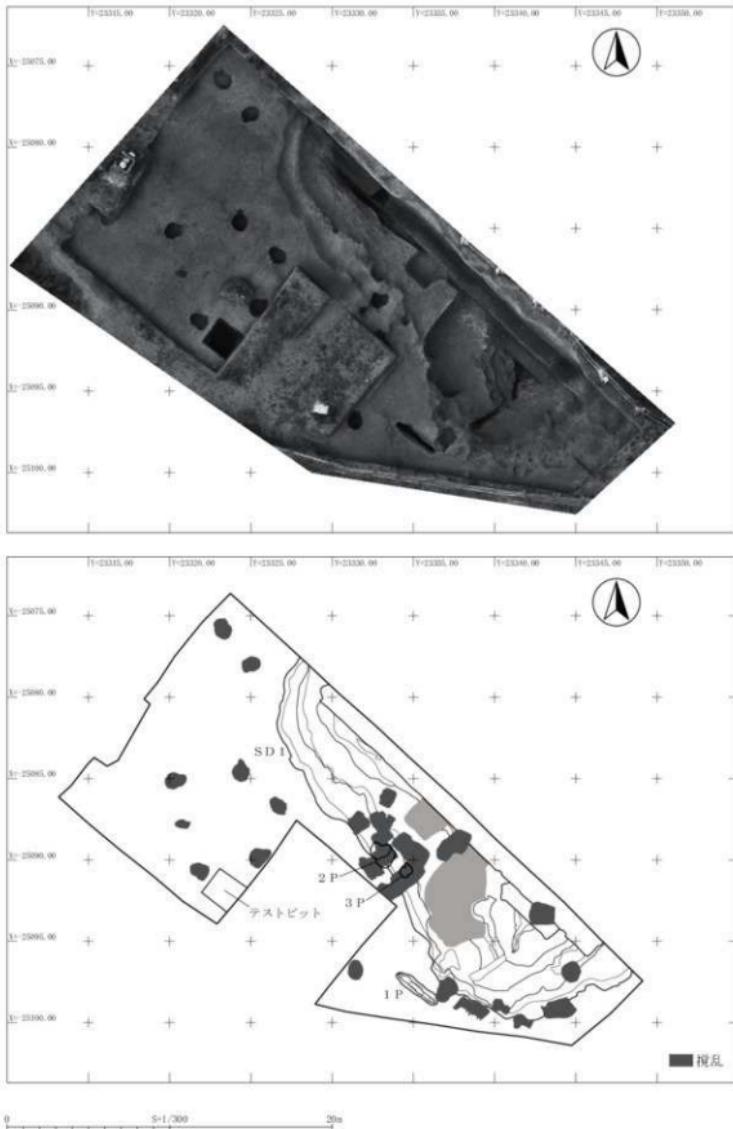
地点名	調査形態	調査期間	検出遺構	出土遺物	文献
a 地点	確認調査	H6.5.30～6.14	時期不明の塚1基、土壙1条	縄文土器、砾石	八千代市教育委員会編1997『千葉県八千代市内道路整備調査報告 平成8年度』
b 地点	確認調査	H10.3.2～3.13	弥生時代後期堅穴建物跡1棟、古墳時代前期堅穴建物跡1棟、平安時代堅穴建物跡1棟、中世堀跡1条、時期不明土坑1基	縄文土器、弥生後期土器、古墳時代土器、平安時代土器、中世陶磁器	八千代市教育委員会編2002『千葉県八千代市不特定遺跡発掘調査報告書1』

第2節 神久保寺台遺跡の概要

神久保寺台遺跡と周辺の遺跡 神久保寺台遺跡の周辺には遺跡が密集している。その中でも中近世に焦点を当てるとき、作山遺跡では中世の火葬墓・土壙墓25基と溝跡1条が調査され、中世の白磁・青磁・錢貨・板碑が出土した（八千代市教育委員会編2003）。また、作山塚群では4基の塚が調査されたが、塚の築造時期や性格を示すような遺物は出土しなかった（八千代市教育委員会編2011・2017）。そして、八千代市間見穴遺跡では中世～近世の火葬施設群と土壙墓が検出された（跡千葉県文化財センター編2004）。

神久保寺台遺跡の立地 神久保寺台遺跡は、神崎川から伸びる谷津に面した台地上に位置している。調査区内の標高は約21mで、神久保寺台遺跡が立地する台地は比較的平坦である。

これまでの調査 神久保寺台遺跡では過去に2度確認調査が行なわれている。a 地点では時期不明の塚と土壙が確認された。一方、b 地点では弥生時代後期堅穴建物跡1棟、古墳時代前期堅穴建物跡1棟、平安時代堅穴建物跡1棟、中世堀跡1条、時期不明土坑1基が確認された。



第4図 調査区全体図

第2章 検出された遺構

今回の本調査では縄文時代の陥穴1基、中世の堀跡1条と中世と考えられるピット2基が調査された。一方、遺物は出土しなかった。

基本層序については、1層が表土、2層が近代以降の整地層、3層がソフトローム、4層がハードローム、5層が第1黒色帶、6層が始良Tn火山灰(AT)層、7層が第2黒色帶、8層が第2黒色帶下のハードロームである。遺構確認面は、確認調査の結果から基本層序3層とした。

第1節 縄文時代

1P

時期：縄文時代

検出面：基本層序3層

平面形態：長楕円形

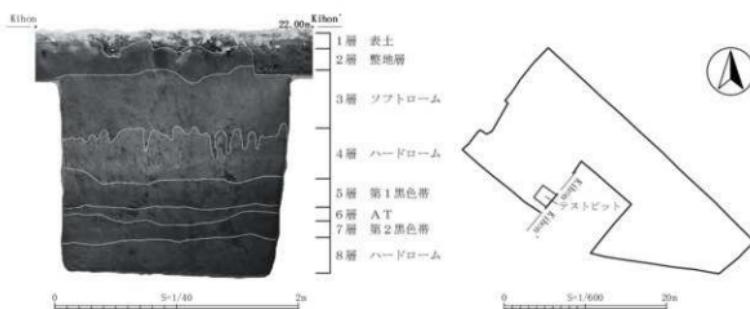
規模：長軸長3.03m 短軸長0.71m 深さ1.15m

構造：底面は緩やかなU字状を呈する。底面はやや回凸があり、中心に向かってやや低くなっている。また、北西側の底面に小ピットが設けられていた。断面形状に目を向けると、中端付近から底面にかけてオーバーハンプとして袋状に膨らんでいた。

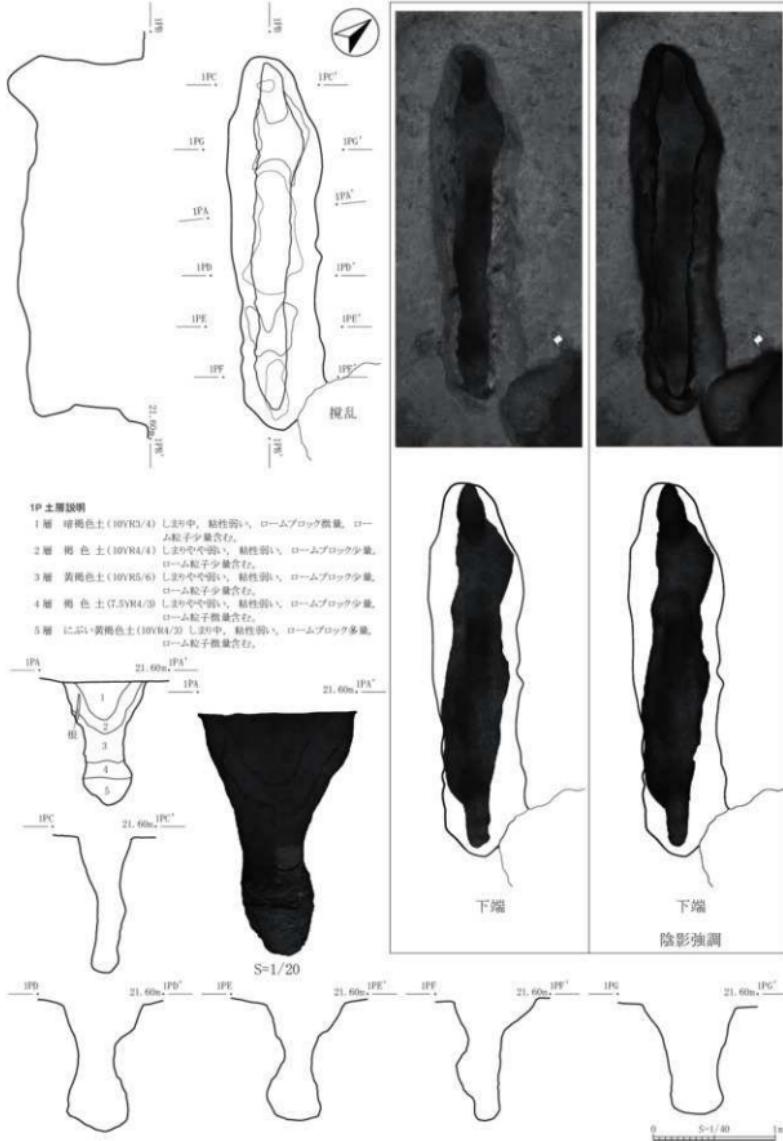
埋土堆積状況：5層はロームブロックが多量に混じっており、さらに2～4層はしまりも弱いため、埋土は自然堆積ではなく、人為的に埋め戻されて堆積したと思われる。

出土遺物：本調査で遺物は出土しなかったが、確認調査時に加曾利E式と思われる土器片が1点出土した。

備考：セクション画像の撮影時は壁出しが十分でなかったため、セクション画像とセクション図の壁面の形状が異なってしまった。



第5図 基本層序



第6図 1P

第2節 中世

第1号堀跡

時期：遺物が出土しなかったため、詳細な時期は不明。

検出面：基本層序3層

切り合い関係：2Pおよび3Pと切り合う。両遺構を本遺構の埋土中で認識できなかったことから、これらのピットの埋没時期は本遺構と同時か、あるいは先行すると考えられる。

平面形態：不明

規模：長軸長 28.26 m 短軸長 8.66 m (調査区壁際まで) 北西側深さ 2.82m, 南東側深さ 4.74 m)

構造：本遺構は中央部が浅く、北西側と南東側で深かった。南東側の様相から判断すると断面形状は薬研堀であり、北西側、南東側共に壁面に段が構築されていた。南東側は底面が確認されたため、自然堆積層をどこまで掘り込んだのかを壁面を観察することで確認できた。その結果、ロームの下からは灰白色粘土層が確認され、さらに粘土層の下からはシルト層が認められ、南東側の掘り込みはこのシルト層にまで達していたことが明らかとなった。一方、北西側も底面の可能性のある平らな面が確認されたが、非常に狭い範囲での確認だったため、段である可能性も排除できない。また、北西側の掘り込みは灰白色粘土層まで達しておらず、底面の可能性がある面で確認されたのは第11図で64層としたローム層であった。

シルト検出状況：SD1B-SD1B' の7層（第11図の16層）でブロック状になったシルトが検出された。シルトは台地上で自然堆積しえるものとは考えがたいため、本遺構の埋没過程において人為的な要因によって堆積した可能性がある。

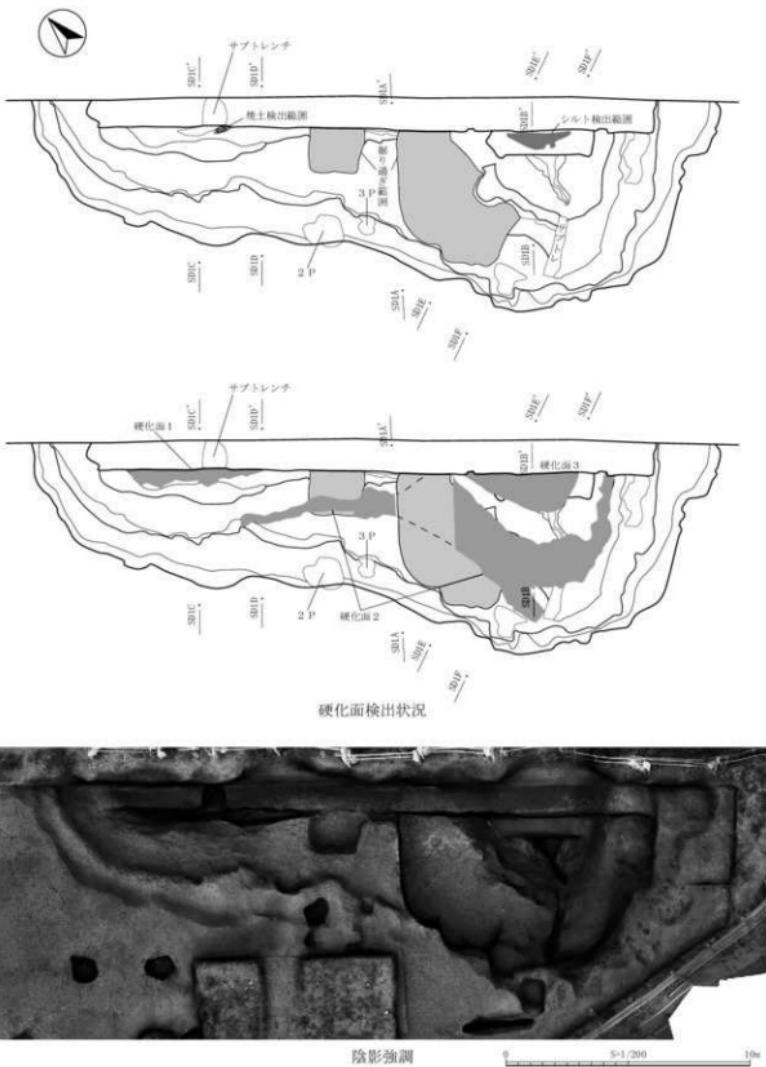
焼土検出状況：北西側の底面の可能性がある平らな面において焼土が面的に検出された。

埋土堆積状況：堆積層の特徴は大きく2つに分けられた。1つ目は主に黒色土ないしは黒褐色土の層が堆積した層、2つ目は主に褐色土が堆積した層である。いずれもレンズ状堆積であったことから、自然堆積と考えられる。ところで、北西側と南東側で掘り込みの深さに違いがあったため、構築時期の異なる2つの堀跡が切り合っている可能性も考えられた。しかし、セクションの観察からは明確な切り合い関係が認められず、さらには各層の埋土が同一であったため、この可能性は低いと考えざるをえない。

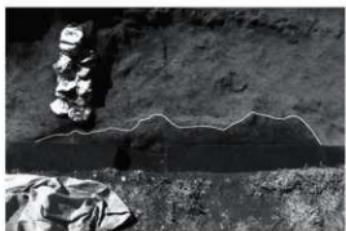
硬化面検出状況：今回の調査では、硬化面が複数確認された。いずれも自然堆積層中で、埋没過程で硬化面が形成されたものと考えられる。

出土遺物点数：遺物は出土しなかった。

備考：第7図で示したとおり、今回の調査では誤って掘りすぎてしまった箇所が2ヶ所ある。その原因是、本遺構に堆積していた褐色土の埋土が固く、かつ色調もロームと酷似しているため、本遺構の立ち上がりの判断が難しかったためである。また、SD1B-SD1B' のセクション図が本遺構の立ち上がりまで達していないのは、この固い褐色土を立ち上がりと誤認したためである。



第7図 第1号堀跡（1）



硬化面1 検出状況



硬化面3 検出状況



硬化面2 検出状況（1）



硬化面2 検出状況（2）



シルト検出状況



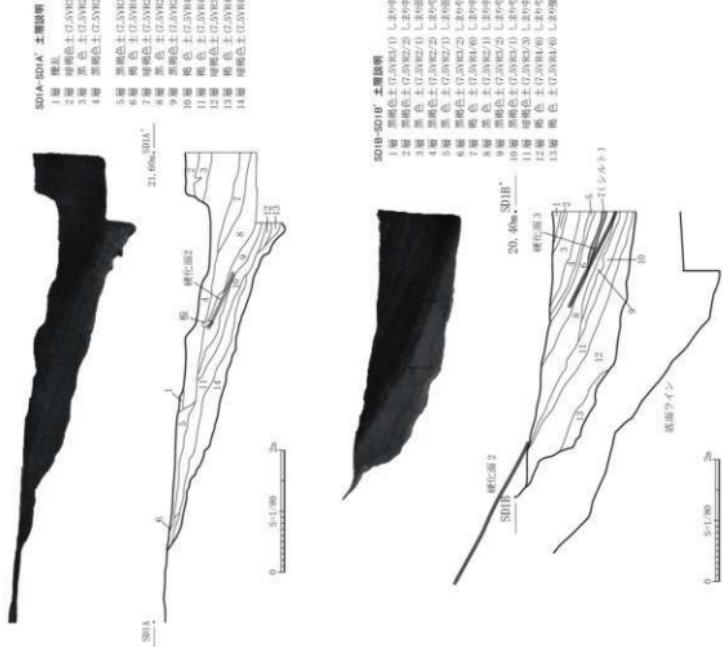
焼土検出状況

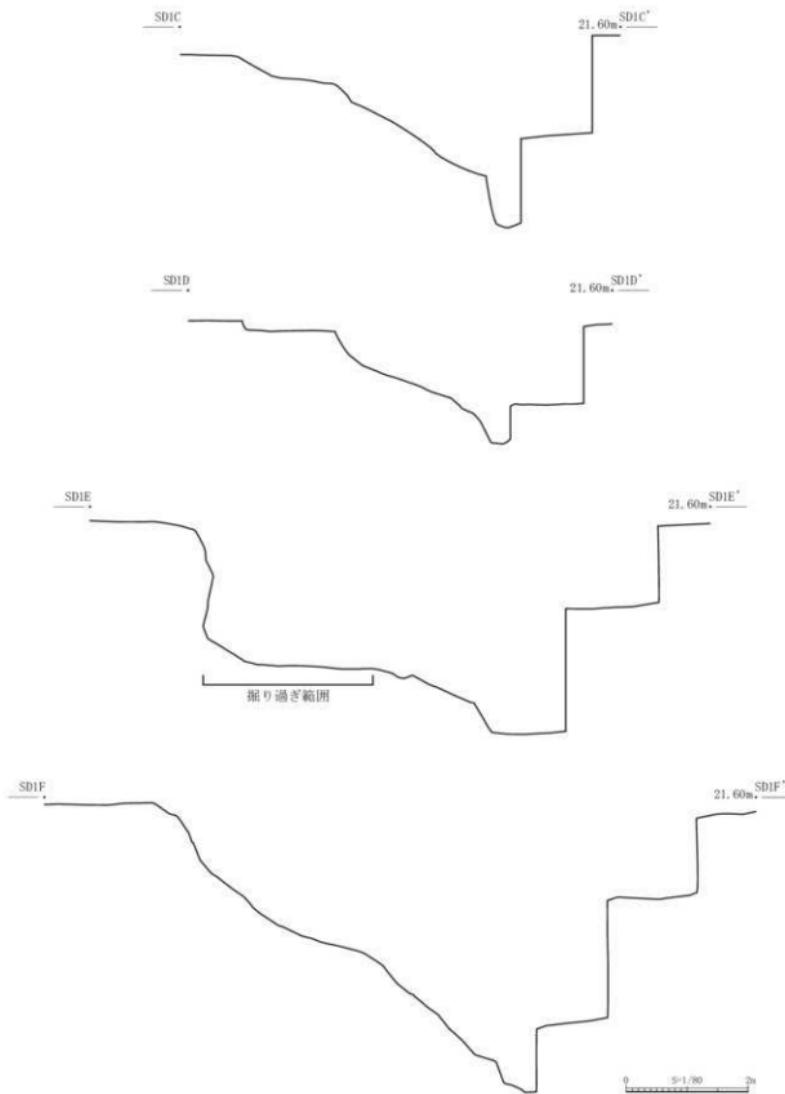
第8図 第1号堀跡（2）

2 P

時期と切り合い関係：本構造は第1号堀跡の壁面で確認された。第1号堀跡の埋土中で2Pを確認することができず、かつ第1号堀跡の埋土と見分けがつかなかったことから、2つの可能性が考えられる。1つ目は、掘削時期が第1号堀跡と同時か機能している間に掘削された可能性、2つ目は、第1号堀跡が廃絶された後、埋まりきらないうちに2Pが掘ら

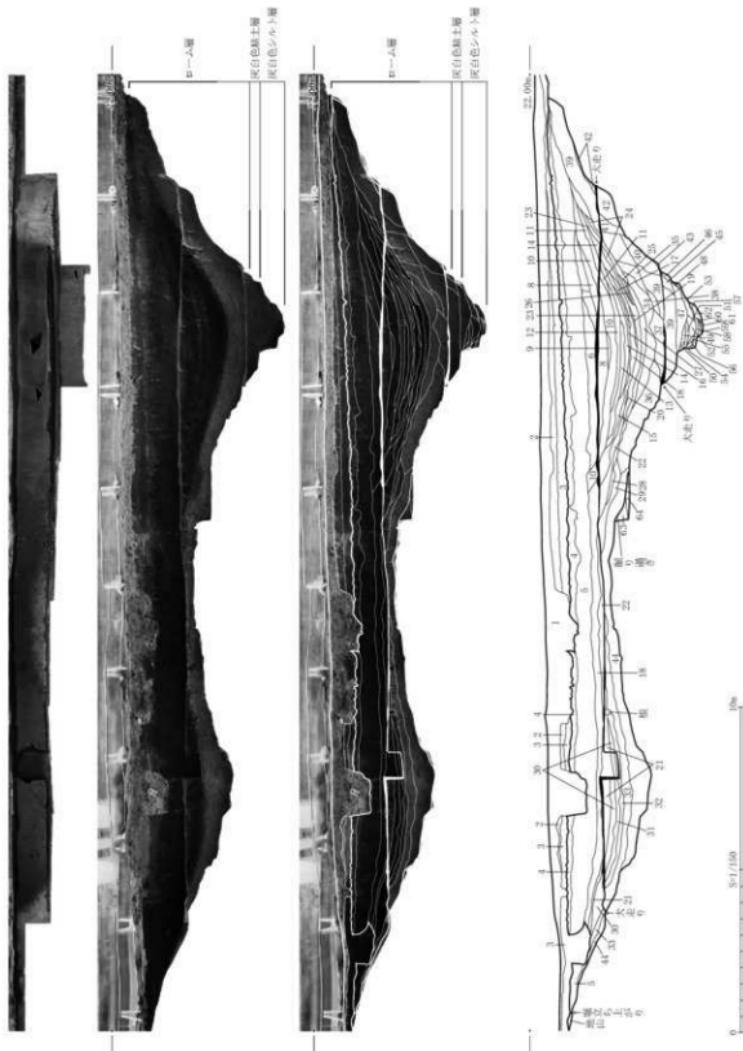
第1号堀跡 (3)





第10図 第1号堀跡（4）

第11図 第1号堀跡 (5)



SD10-SD10' 土層説明

- 1 層 暗褐色土 (7.5VR2/3) しらべ強め、粘性弱い。ガラ多量含む。岩土。
- 2 層 喀斯特土 (7.5VR3/4) しらべ強め、粘性弱い。ロームブロック・粘子微量。炭化物微量含む。堅地層。
- 3 層 喀斯特土 (7.5VR3/4) しらべやや強め、堅性中。粘性中。ローム粘子微量。炭化物微量含む。SD1A-SD1A' の 2 層に対応。
- 4 層 黒色土 (7.5VR2/1) しらべ中。堅性中。ローム粘子微量。黒褐色土 (7.5VR3/2) ブロック含む。SD1A-SD1A' の 3 層に対応。
- 5 層 黒色土 (7.5VR2/2) しらべ中。堅性中。ロームブロック少量。ローム粘子微量。黒褐色土 (7.5VR3/2) 少量含む。所々に硬化的ブロック混じる。SD1A-SD1A' の 4 層に対応。
- 6 層 黒褐色土 (7.5VR2/2) しらべやや強め、粘性やや弱め。ローム粘子微量含む。
- 7 層 喀斯特土 (7.5VR3/3) しらべやや強め、堅性弱い。ローム粘子少量含む。
- 8 层 黒褐色土 (7.5VR3/3) しらべ中。堅性中。ローム粘子微量。白色粘子微量含む。SD1B-SD1B' の 1 層に対応。
- 9 层 黒褐色土 (7.5VR2/2) しらべ中。堅性やや弱め。堅性中。ローム粘子微量。炭化物微量含む。SD1B-SD1B' の 2 層に対応。
- 10 層 黒色土 (7.5VR2/2) しらべ弱め。堅性中。白色粘子中量含む。SD1B-SD1B' の 3 層に対応。
- 11 層 黒色土 (7.5VR2/2) しらべやや強め、粘性やや弱め。白色粘子微量。白色粘子少量含む。
- 12 層 黒褐色土 (7.5VR2/2) しらべやや強め。粘性やや弱め。白色粘子中量含む。SD1B-SD1B' の 4 層に対応。
- 13 层 黒色土 (7.5VR2/1) しらべ弱め。堅性中。白色粘子中量含む。SD1B-SD1B' の 5 層に対応。
- 14 层 黒褐色土 (7.5VR3/2) しらべやや強め、粘性やや弱め。白色粘子中量含む。SD1B-SD1B' の 6 層に対応。
- 15 层 黑褐色土 (7.5VR2/2) しらべ中。堅性やや弱め。白色粘子少量含む。
- 16 层 黒色土 (7.5VR4/6) しらべ中。堅性弱め。白色粘子少量。シルト含む。シルトについては自然に堆積すると考えられる。SD1B-SD1B' の 7 層に対応。
- 17 层 黑褐色土 (7.5VR2/2) しらべ中。堅性やや弱め。白色粘子少量含む。
- 18 层 黑色土 (7.5VR2/1) しらべ中。堅性やや弱め。白色粘子少量含む。SD1B-SD1B' の 8 層に対応。
- 19 层 黑褐色土 (7.5VR3/2) しらべやや強め、堅性中。白色粘子微量含む。SD1B-SD1B' の 9 層に対応。
- 20 层 黑色土 (7.5VR2/1) しらべやや強め。堅性中。白色粘子微量含む。
- 21 层 黑褐色土 (7.5VR2/1) しらべ弱め。堅性中。白色粘子微量含む。
- 22 层 黑褐色土 (7.5VR2/1) しらべやや強め。堅性やや弱め。白色粘子少量含む。
- 23 层 黑褐色土 (7.5VR2/1) しらべやや強め。堅性やや弱め。白色粘子微量含む。SD1B-SD1B' の 10 層に対応。
- 24 层 黑褐色土 (7.5VR2/2) しらべやや強め。堅性弱め。白色粘子微量含む。
- 25 层 黑褐色土 (7.5VR2/2) しらべやや強め。堅性弱め。白色粘子微量含む。
- 26 层 黑褐色土 (7.5VR2/1) しらべやや強め。堅性弱め。白色粘子微量含む。
- 27 层 喀斯特土 (7.5VR3/3) しらべ中。堅性やや弱め。ロームブロック量。白色粘子微量。赤褐色子微量含む。SD1B-SD1B' の 11 層に対応。
- 28 层 喀斯特土 (7.5VR3/3) しらべ中。堅性やや弱め。ロームブロック量。白色粘子微量含む。
- 29 层 喀斯特土 (7.5VR3/3) しらべ中。堅性やや弱め。ロームブロック・粘子微量。白色粘子微量含む。
- 30 层 黑褐色土 (7.5VR2/1) しらべ中。堅性やや弱め。ロームブロック・粘子微量。白色粘子微量含む。
- 31 层 黑褐色土 (7.5VR2/1) しらべ中。堅性やや弱め。ロームブロック・粘子微量。白色粘子微量含む。
- 32 层 喀斯特土 (7.5VR4/6) しらべ中。堅性やや弱め。ロームブロック・粘子微量。白色粘子微量含む。
- 33 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべ中。堅性やや弱め。種子土色 (7.5VR3/2) ブロック微量含む。
- 34 层 黑褐色土 (7.5VR5/6) しらべやや強め。粘性やや弱め。SD1B-SD1B' の 12 層に対応。
- 35 层 明褐色土 (7.5VR5/6) しらべやや強め。粘性やや弱め。
- 36 层 明褐色土 (7.5VR5/6) しらべやや強め。粘性やや弱め。黑色粘子微量含む。
- 37 层 黑褐色土 (7.5VR5/6) しらべやや強め。粘性やや弱め。黑色粘子少量含む。
- 38 层 以降 黑褐色土 (7.5VR5/6) しらべやや強め。粘性やや弱め。黑色粘子微量含む。
- 39 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべ強め。粘性やや弱め。黑色粘子少量。白色粘子微量含む。
- 40 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべ中。堅性やや弱め。黑色粘子微量含む。
- 41 层 明褐色土 (7.5VR5/6) しらべやや強め。粘性やや弱め。
- 42 层 明褐色土 (7.5VR5/6) しらべやや強め。ハーフローム並。堅性弱め。
- 43 层 黄褐色土 (10YR4/6) しらべやや強め。堅性中。黑色粘子微量含む。
- 44 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべやや強め。粘性やや弱め。
- 45 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべ中。堅性やや弱め。明黄色土ブロック・粘子微量。黑色粘子微量含む。
- 46 层 以降 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべやや強め。粘性やや弱め。灰白色粘土 (7.5VR6/1) ブロック・粘子微量含む。
- 47 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべやや強め。堅性中。ローム粘子微量。灰白色粘土 (7.5VR6/1) ブロック微量含む。
- 48 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべやや強め。堅性中。ローム粘子微量。灰白色粘土 (7.5VR6/1) ブロック微量含む。
- 49 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべ強め。堅性やや弱め。灰白色粘土 (7.5VR6/1) 粘子微量含む。
- 50 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべ強め。堅性やや弱め。灰白色粘土 (7.5VR6/1) ブロック・粘子微量含む。
- 51 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべ強め。堅性やや弱め。灰白色粘土 (7.5VR6/1) ブロック・粘子微量含む。
- 52 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべ強め。堅性やや弱め。灰白色粘土 (7.5VR6/1) ブロック・粘子微量含む。
- 53 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべ中。堅性中。灰白色粘土 (7.5VR6/1) ブロック・粘子微量含む。
- 54 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべ中。堅性やや弱め。灰白色粘土 (7.5VR6/1) ブロック・粘子微量含む。
- 55 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべやや強め。堅性やや弱め。灰白色粘土 (7.5VR6/1) ブロック・粘子微量含む。
- 56 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべやや強め。堅性中。灰白色粘土 (7.5VR6/1) ブロック・粘子微量含む。
- 57 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべ強め。堅性やや弱め。灰白色粘土 (7.5VR6/1) ブロック・粘子微量含む。
- 58 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべ強め。堅性やや弱め。灰白色粘土 (7.5VR6/1) ブロック・粘子微量含む。
- 59 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべ強め。堅性やや弱め。灰白色粘土 (7.5VR6/1) ブロック・粘子微量含む。
- 60 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべやや強め。堅性中。灰白色粘土 (7.5VR6/1) ブロック・粘子微量含む。
- 61 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべやや強め。堅性中。灰白色粘土 (7.5VR6/1) ブロック・粘子中量含む。
- 62 层 黑褐色土 (7.5VR4/6) しらべやや強め。堅性中。灰白色粘土 (7.5VR6/1) ブロック・粘子中量含む。
- 63 层 明褐色土 (7.5VR5/6) ハードローム層。通り過ぎ。
- 64 层 明褐色土 (7.5VR5/6) ハードローム層。通り過ぎ。

第 12 図 第 1 号堀跡 (6)

れた可能性である。どちらが妥当であるかは判断できないが、本遺跡で近世の人間活動は認められないことから、それ以前の所産であることは間違いないと考えられる。

検出面：第 1 号堀跡の壁面（基本層序 3 層）。

平面形態：3 つのビットが切り合っていると考えられたため、a・b・c と分けることとした。

規模

a : 長軸長 1.5 m, 短軸長不明, 深さ : 0.75 m

b : 長軸長不明, 短軸長 0.67 m, 深さ : 0.68 m

c : 長軸長不明, 短軸長不明, 深さ : 0.31 m

構造: b の下端からは柱のあたりが確認された。

埋土堆積状況: 半裁して堆積状況を確認するプロセスが行なえなかつたため, 確認できなかつた。そのため, a・b・c の新旧関係についても把握できなかつた。

3 P

時期と切り合い関係: 本遺構も第1号堀跡と切り合っており, 埋土も第1号堀跡と特徴が同じであることから, 2 P と同様の理由によって近世以前と考えられる。

検出面: 第1号堀跡の壁面 (基本層序3層)。

平面形態: 2つのピットが切り合っていると考えられたため, a・b と分けることとした。

規模

a : 長軸長 : 0.67 m, 短軸長不明, 深さ : 0.39 m

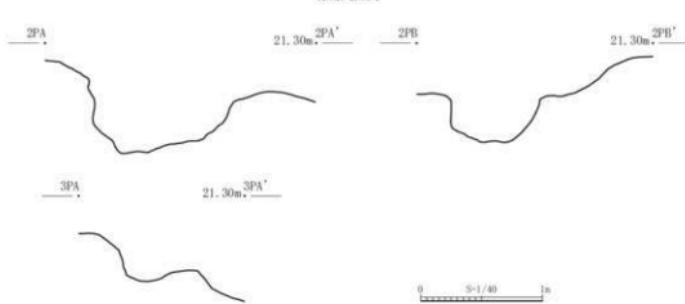
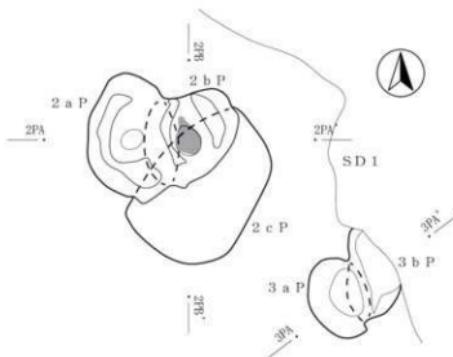
b : 長軸長 : 不明, 短軸長 : 不明, 深さ : 0.31 m

構造: 検出時に大部分が第1号堀跡の調査で壊されてしまつたため, 構造については不明である。

埋土堆積状況: 半裁して堆積状況を確認するプロセスが行なえなかつたため, 確認できなかつた。そのため, a・b の新旧関係についても把握できなかつた。



第13図 2P・3P (1)



第14図 2P・3P(2)

第3章　まとめ

第1節　縄文時代

本遺跡ではこれまで2度の調査が行なわれてきたが、縄文時代遺構の検出例はなかった。そのため、今回の調査で縄文時代の陥し穴1基が検出されたことは縄文時代に本遺跡において人的活動が行なわれていたことを示すものであり、本遺跡における新たな歴史の一端を明らかにしたと言える。

第2節　中世

まずは、今回検出された第1号堀跡の特徴を周辺遺跡と比較をしながら述べる。第1号堀跡は南東側の様相から判断すると断面形状は薬研堀で、壁面に段が構築されている。周辺地域で壁面に段が構築されている事例としては、妙見前遺跡b地点（八千代市教育委員会編 2008）の1号堀（第14図）が挙げられる。また、埋土中に硬化面が検出された点についても、妙見前遺跡b地点1号堀で同様の事例が確認されている。しかし、硬化面の形成が人為的要因によるものであることは確実と考えられるが、これがどのような人的活動の結果残されたのかを明らかにすることは難しい。

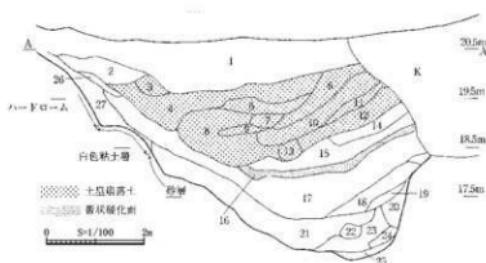
調査区中央付近から第1号堀跡の上端に沿うように2Pと3Pが検出された。2bPでは柱のあたりが確認されたことから何かしらの建築物があったと考えられるが、この2つのピットが堀跡と共に機能したのかどうかはわからず、かつ今回の調査は堀跡の部分的な調査に過ぎず、繩張もよくわかっていないため、この2つのピットの機能について具体的に言及することは難しいと言わざるをえない。

次に、過去に行なわれた神久保寺台遺跡における調査例と今回の調査結果の関連性を述べる。神久保寺台遺跡では1996（平成8）年と1997（平成9）年に調査が行われた（八千代市教育委員会編 1997・2002）（第14図）。1996年の調査では測量とトレンチ調査が行われ、塹状遺構と土壘状遺構が確認された。なお、この土壘状遺構の盛土のしまりは弱く、突き固めて盛ったとは考えがたかった。一方、1997年の調査では堀と思われる遺構が検出されたが、上幅1.30m以上、深さ1.07mと規模が小さいことから区画溝の可能性もあった。さらに、両調査で遺物は出土せず、年代の確定にも至らなかつたため、これらの遺構が城館跡に伴うものなのかどうか断定することができなかつた。こうした中、今回の調査で検出された第1号堀跡は深いところで約4.7mと規模が大きく、また、壁面に段が構築されているなど、城館跡の堀跡として検出された県内外の遺構と同様の特徴を有している。このことから、今回検出された遺構が城館跡に伴う堀跡と判断でき、さらには過去の調査で検出された遺構も城館跡に関係すると考える方が整合的であることから、神久保寺台遺跡には城館跡が存在したと考えるのが妥当である。

それでは、神久保寺台遺跡の城館跡はいつ頃構築されたのだろうか。宇留野主税によると、上幅3～15m前後、深さ2.5～6mの薬研堀で段が設けられた平地城館の堀は16世紀中葉～16世紀末に位置付けられている（宇留野 2014）。ところが、堀跡に段が確認された妙見前遺跡



神久保寺台遺跡において過去の調査で検出された城館跡間連遺構



妙見前遺跡 b 地点で検出された 1号墳のセクション図

第 15 図 まとめの関連資料

b 地点 1 号堀からは 15 世紀代と考えられる常滑焼の片口鉢や擂鉢が出土しており、宇留野による年代観と齟齬がある。ただ、15 世紀代の遺物が 16 世紀中葉～末に廃棄されることは十分にありえるため、15 世紀代の遺物が数点出土したことのみを根拠に妙見前遺跡 b 地点 1 号堀を 15 世紀代と確定させるのは性急でもある。そのため、妙見前遺跡 b 地点 1 号堀の年代観は未だ決め手に欠くと言わざるをえない。以上のことを踏まえると、妙見前遺跡 b 地点 1 号堀と同様に段が構築された神久保寺台遺跡 c 地点第 1 号堀跡の年代観も未だ不明とするのが妥当であろう。今後の調査・研究の進展が望まれる。

以上のように、年代観については未だ確定できないが、神久保寺台遺跡には中世の城館跡が存在したことが明らかとなった。神久保寺台遺跡に城館が存在したことを示す文献史料は見つかっておらず、八千代市およびその周辺における中世の地域史を考える上で新たな歴史の一端が明らかになったと言える。

＜参考・引用文献＞

- 宇留野主税 2014 「堀・堀内障壁〔障子堀〕」 萩原三雄・中井均編『中世城館の考古学』 高志書院
- 橋口定志 2005 「東国の武士居館」 藤木久志監修・埼玉県立歴史資料館編『戦国の城』 高志書院
- 八千代市教育委員会編 1997 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告 平成 8 年度』 八千代市教育委員会
- 八千代市教育委員会編 2008 『千葉県八千代市 妙見前遺跡 b 地点発掘調査報告書』 千葉県千葉地域整備センター
- 八千代市教育委員会編 2002 『千葉県八千代市不特定遺跡調査報告書 1 一金塚所在塚・萱田町川崎山遺跡・高津新田野馬堀遺跡・尾崎群集塚・神久保寺台遺跡・稲荷前遺跡一』 八千代市教育委員会
- 八千代市教育委員会・八千代市中世館城址調査団編 1976 『八千代中世館城址調査報告』 八千代市教育委員会・八千代市中世館城址調査団

報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし いものくぼでらだいりせきしーちてん							
書名	千葉県八千代市 神久保寺台遺跡c地点							
副書名	店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
編著者名	轟 直行、多田宏太							
編集機関	八千代市教育委員会							
所在地	〒 276-0045 千葉県八千代市大和田 138 番地2 TEL. 047(483)1151 代表							
発行年月日	西暦 2018 年 10 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
いものくぼでらだいりせきしーちてん 神久保寺台遺跡c地点	いものくぼあさきたのむ 神久保字北ノ谷 ヲ 津 53 番4・7・8・ あざべのひい 9. 字寺ノ台 75 番 29		12221	7	35 度 46 分 25 秒	140 度 05 分 29 秒 ~ 2018. 4. 26	296.5 m ² (上層)	店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
神久保寺台遺跡c地点	包蔵地 城館跡	縄文時代 中世	陥し穴1基 堀跡1条、ピット2基	なし	
要約	<p>今回の調査では、縄文時代の陥し穴1基と中世の城館跡に伴うと考えられる堀跡1条、中世あるいはそれ以前と考えられるピット2基が検出された。</p> <p>本遺跡ではこれまで2度の調査が行なわれてきたが、縄文時代遺構の検出例はなかった。そのため、今回の調査で陥し穴が検出されたことは本遺跡において縄文時代人が活動していたことを示すものであり、本遺跡における新たな歴史の一端を明らかにしたと言える。</p> <p>本遺跡を対象とした過去の調査において中世の城館跡の可能性がある遺構は検出されていたが、城館跡の存在を確定させるまでには至っていなかった。しかし、今回の調査で検出された構跡は城館跡に伴う堀跡と考えざるをえない規模であり、これによって文献史料で把握されていない城館跡が本遺跡に存在したことが確定したと考えられる。</p>				

千葉県八千代市 神久保寺台遺跡 c 地点
—店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発 行 日 平成 30 年 10 月 31 日
編 集 八千代市教育委員会 教育総務課
〒 276-0045 八千代市大和田 138-2
TEL 047-483-1151(代表)
発 行 万仁土地株式会社
印 刷 金子印刷企画

